

## 内装士会講習会報告書

北海道インテリア事業協同組合  
内装士委員長 渡邊 勲

### 講演／講習会を聞いて

子供の心理や行動を『子供の目線で観ること』そこから 子供部屋の位置／配置を決める事が大切で有ることを 永年の教員経験で得た知識で多角的に説明して頂いた。

子供の行動は 推測出来ない, 大人の常識は, ときとして子供の発想や行動と異なることが多い  
おもちゃが部屋中に散らかっているように見えても, 子供には, なにがしかの意図でそこに置いている, 全てではないが, 少し見学してみても良いのかも。部屋中にちらかした物の片付けは子供にさせる (整理) しかし整頓は親のセンスになる, (片づける習慣はしつけ) 収納や棚は子供が使いやすい位置に設置する  
子供部屋の理想的な配置／ 親は子供の気配を常に感じていられ, 子供は親の姿が常に見える位置が良い  
親は子供に目が届き, 何をしているのかを感じ取れ 子供は親が視線にいることで安心する。自然な形で互いいを確認できることが大切。

子供が悪さをすることは, ごく普通の行動です, 部屋を汚す, 傷つける, それを叱るのではなく, 汚しても傷つけても叱らずに済む内装が好ましい。簡単に修復可能な素材を使うよう提案するのも選択肢です  
汚すことを叱るのではなく 汚しても良い物を使用する ( 素材 価格 )

色彩／子供により感性をまちまちです, 親の好みを押しつけない (自主性と感性を大切に)

育つ環境で好みの色彩は影響される, 雪国に育てば「グレー」とか地味目に暑い環境に育つと「赤」とか派手目の色を好む傾向がある, 必然的に派手とか地味の意味合い使い分けも環境で違ってくる。

子供部屋は一般的には二階が多いが安全を考えると一階が好ましい

小学高学年2.3年生になると 自意識に目覚めるので 必要に応じ 家具等で仕切る

子供はいずれ独立します, その後の子供部屋をどう活用するのかまで考えてみる

子供の成長に伴い室内も変化を持たせることが必要 子供も成長を自覚する。等々

子供視線での子供室。改めて新鮮な心で感じ取れました, 直接顧客と接する自分たちには, 提案とか話題を提供して頂きました。会話の巾が増えたと思います。

### 図での表現

受講者は知識はあっても, 実践の機会が少ない中 遠近法の基本や三次元の画法等を 講師のユーモアを交えた指導で取り組みました。そこには普段の経営者や営業マンの姿ではない, 真剣に取り組む先生と生徒の姿にみえた気がした。

今回は内装士を対象に子供部屋を課題にしての講習でしたが, 今後も顧客に対する提案とか知識に関する講習会を多くの組合員に提供できる機会を増やして, いけたらと思います,

組合活動やあり方も時代と共に変わりました, 「知識の提供」と「技術の提供」は組合員も望む事業だと思われま。